重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	高齢者になっても健康であるように、介護予防が充実している	
施策名	高齢者になってもいきいきと健康生活が送れる環境をつくる	No.6

年度	平成28年度
責任部長	福祉部長
主担当課長	高年福祉課長
関係課	健康づくり課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
介護予防事業の開催回数（回）	↗	―	―	―	―	―	―	―
		2,175	2,202	2,260	2,280	2,313		2,300
趣味サークル・ボランティアに参加している高齢者の割合（%）	↗	30.0	33.9	31.0	31.0	36.7	34.9	38.3
		34.9	38.1	36.6	37.2	34.5		45.6
高齢者のうち、介護保険サービス対象者に移行した人の割合（%）	↘	4.1	3.0	4.1	3.7	4.0	3.8	3.8
		3.8	3.9	5.0	4.9	5.0		3.6

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

団塊の世代が老年期を迎え、平成27年度には4人に1人が65歳以上となり、平成37年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となるため、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が求められている。
一方では、介護保険の関係施設は増加しており、介護予防に対する意識も年々高まっている。また、定年後の余暇の充実、生きがいづくりのための社会参加の場は広がってきている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	介護予防事業の開催回数は計画的に増加させており、市民の開催への要望も高いが、趣味サークル・ボランティアに興味のある高齢者は停滞傾向にある。介護保険サービスに移行した人の割合は、平成25年度から集計方法が異なる(要支援から要介護となった場合も含む)ため数値が高く比較ができないが、介護認定率は国より約3%、県より約1%一宮市は低く推移している。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
壮年期から主体的に、かつ継続的に健康づくりや介護予防に心がける	一般の高齢者への介護予防や健康維持のためのサポート体制がある	虚弱な高齢者への介護予防や健康維持のためのサポート体制がある	
成人健康相談事業	一次予防事業	二次予防対象者把握事業	
健康教室（成人）事業	介護予防マップ作成事業	通所型介護予防事業	
介護予防マップ作成事業		訪問型介護予防事業	
		介護予防マップ作成事業	

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	まちづくり指標にはないが、要介護認定率を見ると全国は17.9%（H27年度）、愛知県は15.7%(H27年度)、一宮市は15.0%(H27年度)と一宮市は低い状況になっており、介護予防に取り組んでいる成果と考えられる。長期成果の設定は壮年、虚弱高齢者、一般高齢者対象という切り口とした。なお、各事業群の事務事業については、順調に行われている。
次年度の改善計画	より多くの高齢者がいつまでも自分らしい暮らしを維持できるよう、平成29年度から実施するあんしん介護予防事業（介護予防・日常生活支援総合事業）について、事業の内容を市民に普及・啓発していく。 【新規】あんしん介護予防事業

＊＊＊